

進路に迷うあなたへ。挑戦する大人たちが示した北九州の可能性

「北九州って、正直どうなんだろう。」

進学や就職を考える中で、期待よりも不安のほうが先に立つ。地元には何もない、挑戦できる場所は外に出ないと見つからない、、、そんな思い抱えてませんか？

そうした声に真正面から向き合い、北九州市の「今」と「これから」を考えるイベントが開催されました！この記事では、「まちの賑わい」と「教育」という二つのステージ取材し、北九州市で挑戦する大人たちの姿をお伝えします。



「Action!Fes」イベント概要

開催日時:2026年2月8日(日)10時00分～15時00分

会場:JR小倉駅JAM広場(小倉駅3階南北公共通路内、JR九州改札前)

参加費:無料

内容:トークセッション・ステージイベント・ブースなど

Action!Fesは、北九州市のさまざまな分野で活躍されている方々が登壇し、北九州市の「今」と「これから」について語ることで、地域の現状や課題、そして可能性を市民の方々と共有することを目的としたイベントとして開催されました。会場では、北九州で実際に行動を起こしている登壇者の経験や想いが語られ、参加者は北九州市の今を知ると同時に、これからの北九州市についてや、自分自身について考える機会となりました。また、話を聞くだけで終わるのではなく、「自分も何かActionを起こしてみよう」と前向きな気持ちになるイベントでした。

「まちの賑わいを起こす「Action」」

賑わいステージでは、「町の賑わいとは何か」という問いをもとに、参加者それぞれが考える定義や、その要素について意見が交わされました。日常的な文化や地域らしさ、個々のこだわりの積み重ねが賑わいを生むという視点や、同時多発的な主体的活動がまちを動かすという意見が示されました。また、現代アートのような社会と向き合う表現活動や、若者の主体的な挑戦も重要な要素として挙げられました。対面での交流や身体的な体験が、オンラインでは得られない価値を生み出し、地域ならではのつながりを深めていることも印象的でした。



「好き」が広がるまちへ

株式会社GlocalK 代表取締役の持留英樹さんにお話をうかがいました。

「好きなことからすべては始まる」と語る持留さん。好きに本気で向き合う人に共感が集まり、コラボレーションが生まれる。その連鎖こそが、まちの賑わいにつながるといいます。「企業という大きな形でなくてもいい。自分で始めたり、誰かの挑戦を応援したりする動きが広がれば、まちはもっと面白くなる」と期待を寄せます。

また、北九州の強みは、ものづくりの歴史を持つハード産業と、“好き”を軸に動く若者たちのソフトな活動が掛け合わさる点にあると強調します。人と人の距離の近さが、新たな挑戦を生み出す土台になっていると語りました。

持留さんの言葉からは、挑戦が特別なものではなく、“身近なところから始まるもの”であるというメッセージが伝わってきました。

企業とつくる、新しい学びのかたち

教育ステージでは、大学での取り組みや企業と協力した授業について紹介されました。企業と一緒に学ぶは、生徒だけでなく企業側にも気づきを与え、保護者からも良い評価を受けているそうです。生徒の「やってみたい」という気持ちを大切にすることで、成長や学校全体の雰囲気向上にもつながっていると話されました。一方で、教育へのお金や支援が足りないという課題もあり、地域と協力しながら進めていく大切さが伝えられました。



社長から教育者へ—人生を懸けた再スタート

北九州市立高等学校 第24代校長の増田順さんにお話をうかがいました。

かつて2000人規模の会社で20年間社長を務めていたという増田さんは、肺がんの疑いをきっかけに「人生があと5年だとしたら何をするか」と自問したそうです。その経験を通して、安定した立場を離れ、まったく異なる分野である教育の世界へ挑戦する決意をしました。若者が進路に迷い、自分探しに悩む姿を見てきたことから、「もっと早い段階で自分について考える機会が必要だ」と感じたといいます。

企業と学生の距離が近い北九州市だからこそ実践的な学びができると語り、最後に「勉強だけでなく、仲間とチームを高める力を身につけてほしい」と子どもたちへエールを送りました。

私たちの一歩が、まちを動かす

取材を通して感じたのは、北九州は「何もないまち」ではなく、挑戦する人が確かに動いているまちだということです。好きなことに本気で向き合う大人や、教育に情熱を注ぐ人の姿は、私自身の背中も押してくれました。

大きなことをしなくてもいい。まずはイベントに足を運ぶ、地域の活動を知る、誰かの挑戦を応援する。そんな小さなActionが、まちの未来をつくる一歩になるのではないのでしょうか。